

特集「広報にいかっぷ創刊 600号」 ～昔の広報誌からみる新冠町の移り変わり～

広報にいかっぷは、今月号で創刊 600号迎えることとなりました。今月号と来月号は、郷土資料館に保存してある昔の広報誌の中から節目となるものを選び、当時の時代や町の様子などを紹介します。

「新冠村政たより第26号 昭和32年1月20日発行」

この広報誌は、現存している最も古い広報誌で、郷土資料館に写しが保管されています。冒頭は、「年頭の辭(ことば)」という見出しで、新冠村飛島賢治村長の年頭のあいさつが掲載されています。書き出し部分を紹介すると、『村民の皆さんあけましておめでとうございます。二年連続して未曾有の大災害に襲われ文字通り多難でありました。昭和三十一年を送りここに復興の最盛年とも言ふべき昭和三十三年の新春



現在確認できる一番古い新冠の広報紙(写し)

『成人の日』一月十五日 新冠中学校で成人祭舉行』の見出しで、新冠中学校講堂で行われた成人式の様子が写真とともに掲載されています。この年に成人を迎えたのは、昭和十二年生まれ(今年78歳)の方々に、成人者173名の地区と氏名が掲載されています。

を迎えましてかかる災禍のない明るい年であることを念じつつ年頭の御挨拶を申し上げたいと存じます。』ここで述べられている未曾有の大災害は、昭和30年7月4日に発生した開基以来の大洪水のことで、その降雨量は奥地山間部においては230ミリに達しました。被害は全村地域に及び、死者27名、家屋の流出・全壊58戸、その他、道路や橋、学校、鉄道、木工場や診療所などが被害を受け、その被害額は実に10億5千万円に達しました。他に、この村政たよりに掲載されているものに成人式の記事があります。

「広報にいかっぷ第50号 昭和35年1月1日発行」

第50号は元旦に発行されたもので、『新年の挨拶 村長 飛島賢治から始まりです。書き出しは、『幸いに昨年は水陸共に災害がなく豊穰に恵まれ、皆さんも定めし安堵せられて御家族或いは御親族が一同揃つてにぎやかに雑煮のぜんじに向かわれたことと存じます。』と始まり、岩清水発電所の完成と奥新冠発電所の工事着工について、また、電源開発事業に伴う奥地産業開発と奥地地下森林資源の開発促進の重要性について述べられています。

また、現在も主要な道路である国道235号線の「新冠橋」の橋りょう工事が始まったのもこの年で、『これにより高沿線生産物の集約輸送及び奥地建設物資の輸送などに劃期的な役割を果たすものと考えられる』と記載されています。



飛島村長の新年の挨拶

「広報にいかっぷ第100号 昭和41年2月号」

『明日の農業を学ぶ』と題されたこの広報誌では、日高判官館青年の家で行われた新冠町農業学園の冬季合宿教育の一コマが掲載されています。『農業学園は、2月1日より、冬季合宿指導を受けました。』「自宅では、ひとりぼっちでさびしかったが、僕と同じ苦労をして、明日の農業を築こうとしている仲間がこんなにおおぜいいるのだ、先生方の講演は本当にためになりました。でも、なんとと言ってもみんなと一緒に食事をし、一緒に風呂に入り、一緒に寝ながら語ったいろいろな体験談や、将来への夢に、いままですき当たっていた壁を打ち破れるような知恵と勇気が湧いてきた気がします。」

ある学園生は、このように言っていました。これはまさしく青年の家ならではの収穫でしょう。』

ここで紹介されている「新冠町農業学園」とは、新冠町と平取町が協力し農業後継者の育成を目的に組織された団体で、冬の農業の閑散期に合わせ開かれた冬季合宿では、多くの若者が一堂に会し、講義を受け、互いの夢を語り合つたと記されています。また、現在も学校の部活動や地域活動などで多くの若者に利用されている日高判官館青年の家ですが、建設されたのは、昭和41年に日高組合立(当時の日高管内9町村の組合)として建てられました。この年の1月14日に落成式が行われ、翌15日の最初の利用となったのは、当町の成人式でした。



青年の家で開かれた農業学園を紹介した表紙

その後、新冠町農業学園の冬季合宿教育、日高判官館青年研修、新冠町第2回町づくり研究大会が行われるなど、つぎつぎと行事や研修が行われ、新しい日高管内の社会教育の場として賑わいを見せました。

「広報にいかっぷ第150号 昭和47年4月号」

表紙をめくると「未来に飛躍する新冠町を創造するために」と題した小野木町長の47年度執行方針が掲載されています。執行方針では、市街地の排水路の整備や交通安全対策として歩道の整備が進められるなど、生活環境の整備などに重点がおかれていました。また、『統合中学校建設に着手』という記事もあり、新冠沢沿いの朝日・明和・若園と節婦の各中学校は、当時はそれぞれの小学校に併設されていました。また、それらを統合し、市街地の現在の場所に統合中学校を建設すると記載してあります。



カルタ大会の様子を紹介した記事

他にも、『町長杯中央チーム優勝・議長杯は大富チーム』という見出しで、カルタ大会の開催結果が写真付きで掲載されています。当時は、各地区にカルタのチームがあつたということで、写真からも当時の人気ぶりが伝わってきます。

「昔の広報を読んでみませんか？」

郷土資料館では、新冠に関するさまざまな刊行物や記録を保存しており、今月号で紹介している広報誌も資料館から借用し使用させていただきます。その資料館では、5月20日から6月30日まで、これまで保存してきた広報誌を一般の方が自由に読むことができるように閲覧コーナーを設置することとなりました。これを機に、当町の歴史が詰まった町の情報誌を読んでみてはいかがでしょうか。 ※「創刊600号記念」特集記事は、引き続き来月号も掲載いたします。